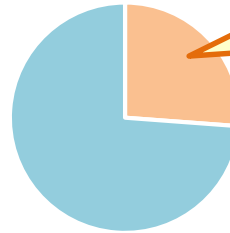


独立行政法人 自動車事故対策機構  
 被害者援護部 今田、大橋  
 電話 03(5608)7638

## NASVA療護施設の治療・看護等の成果を公表します！！ ～4人に1人以上が最重度障害から「脱却」～



### NASVA療護施設での治療・看護



**4人に1人以上が  
最重度障害から脱却**

入院患者累計1,654名  
 脱却による退院434名

- 独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）では、全国に療護施設を設置・運営\*し、自動車事故により重度の意識障害となった患者（遷延性意識障害者\*\*）に対して適切かつ質の高い治療・看護等を実施しております。

\* 参考資料1

\*\* 脳損傷により自力移動・摂食が不可能であるなどの最重度の後遺障害者

- 昭和59年2月の千葉療護センターの開設以降、各療護施設へ入院した患者のうち、運動・認知機能等を顕著に回復させ遷延性意識障害から「脱却」した患者は434名にのぼり、入院患者累計1,654名の約26%、つまり約4人に1人以上が療護施設での治療・看護により「脱却」したことになります（別紙1）。

- 各療護施設における治療・看護等に関し、ナスバスコア（遷延性意識障害の重症度評価基準で点数が高いほど重症となる。詳細は参考資料2）を用いた入院患者の治療改善状況を分析したところ、

① ナスバスコアが高くても、改善している患者がいること

② 年齢が若いほど改善が良好であること

③ 事故後経過期間が短いほど改善が良好であること

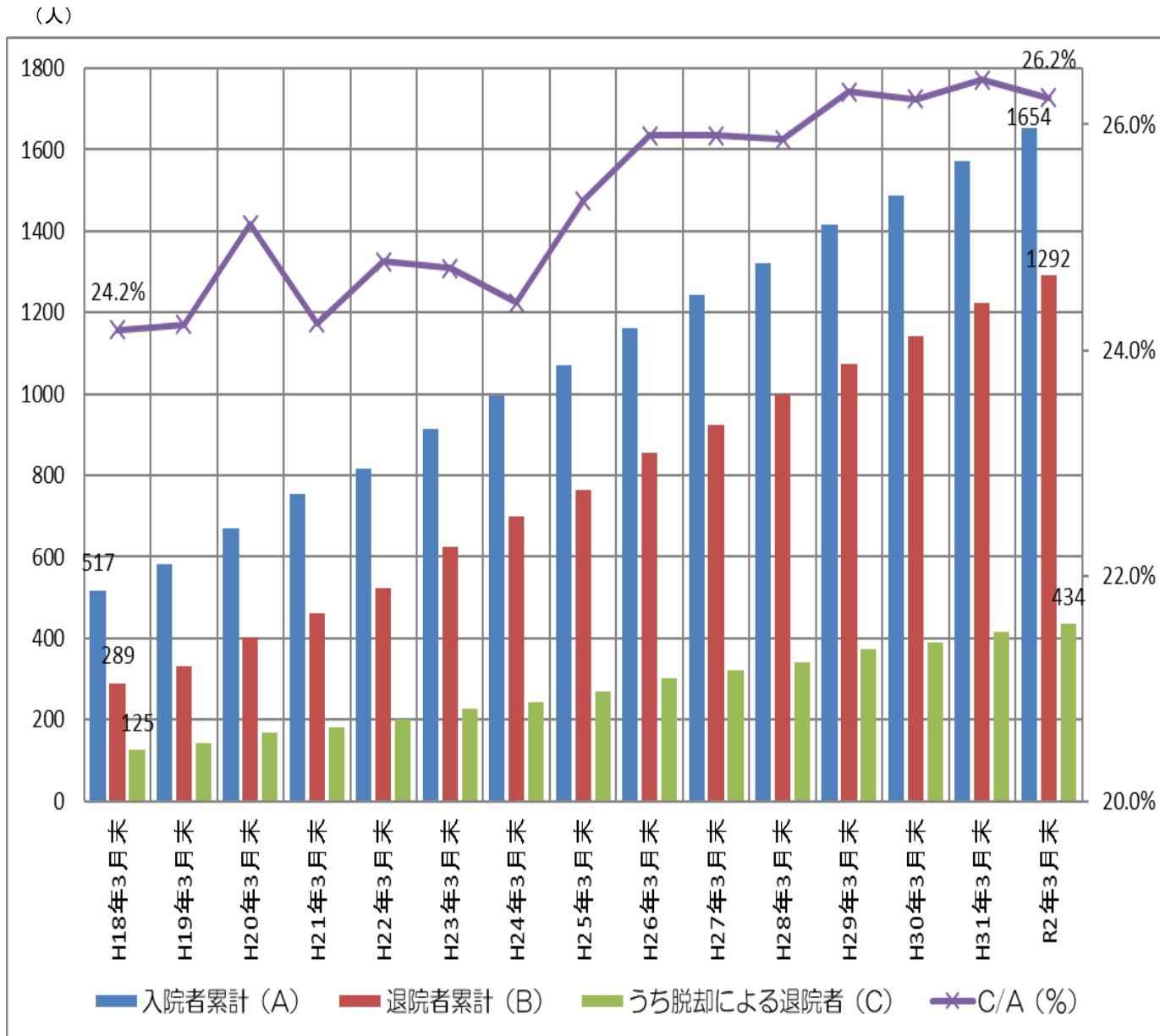
が分かりました（別紙2）。

- NASVAでは、引き続き、ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況の把握を行うとともに療護施設における適切な治療・看護等により、遷延性意識障害者の方々の回復に向け努力して参ります。

※NASVA療護施設で得られた知見・成果については、日本脳神経外科学会等において令和元年度に62件（速報値）の研究発表を行いました。

## 入院患者累計と脱却による退院者数等の状況

- 昭和59年2月に千葉療護センターを開設して以来、令和2年3月末までに、療護施設の入院者累計は1,654名、退院者累計は1,292名、うち脱却による退院者は434名となり、入院者累計に占める割合は、約26%である。



※令和2年3月末の数値はいずれも速報値

## ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況 (金沢脳神経外科病院及び松山市民病院を除く9療護施設を対象)

### 【入院から退院までのナスバスコアの変化(平均値)】

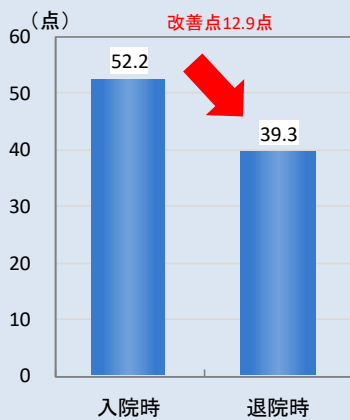
- 平成17年6月1日から令和元年5月31日までの14年間に退院した患者(924人)に関しても、平成26年6月1日から令和元年5月31日までの5年間に退院した患者(345人)に関しても、
  - 入院時ナスバスコア平均値に対し、退院時ナスバスコア平均値は減少している。
  - 入院時重症度別にみた場合も、ナスバスコア平均値は減少している。

H17.6.1

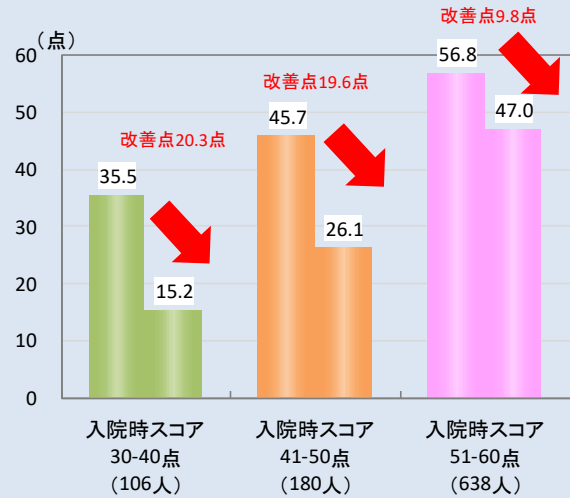
14年間に退院した患者(924人)

R1.5.31

入院から退院までの  
ナスバスコア平均値の変化及び改善点  
(924人)



重症度別の入院から退院までの  
ナスバスコア平均値の変化及び改善点  
(924人)

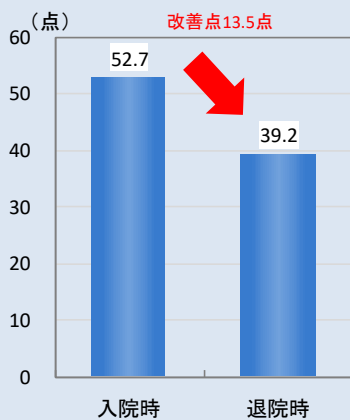


H26.6.1

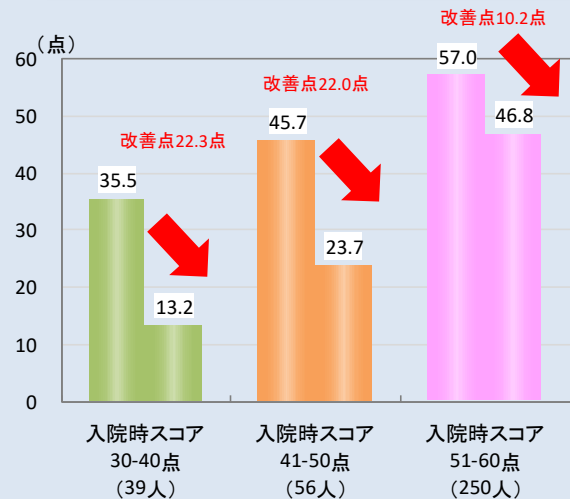
5年間に退院した患者(345人)

R1.5.31

入院から退院までの  
ナスバスコア平均値の変化及び改善点  
(345人)



重症度別の入院から退院までの  
ナスバスコア平均値の変化及び改善点  
(345人)



※ 改善点とは、入院時点ナスバスコア平均値から退院時ナスバスコア平均値を引いた差分である。

【入院から退院までのナスバスコアの変化に影響を与える要素】

■ 平成26年6月1日から令和元年5月31日までの5年間に退院した患者(345人)に関して、「入院から退院までのナスバスコアの変化(改善)」と、

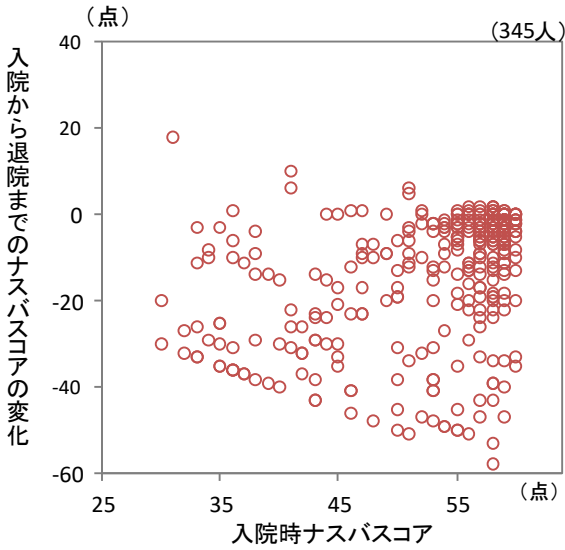
①入院時ナスバスコア ②入院時年齢 ③事故後経過期間

との関係を見ると、

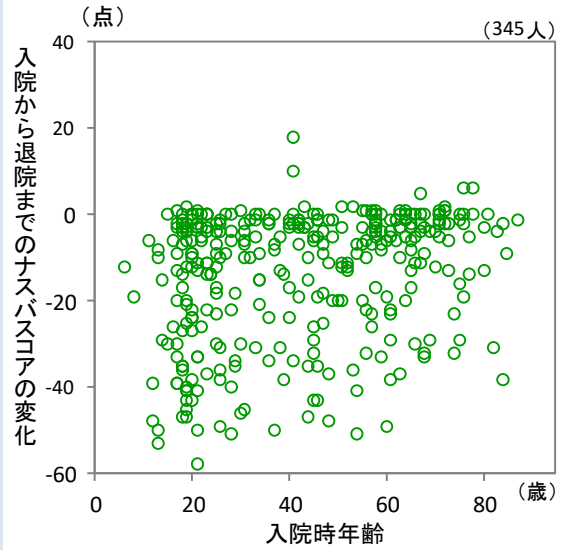
- 入院時ナスバスコアが高い場合であっても、改善している患者がいること
- 入院時年齢が若いほど改善が良好であること
- 事故後経過期間が短いほど改善が良好であること

がわかる。

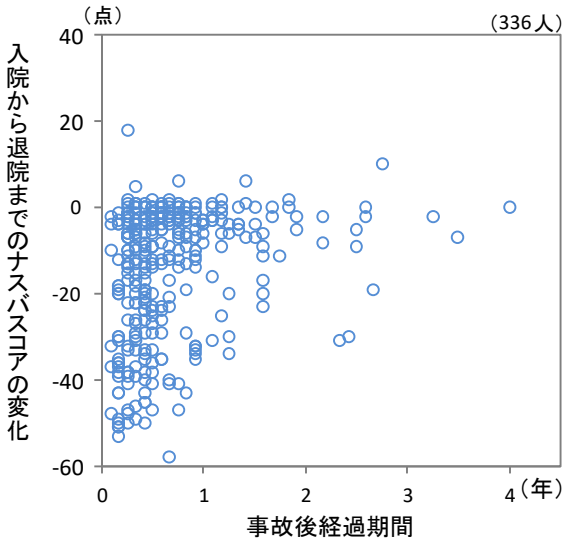
① 入院時ナスバスコア



② 入院時年齢



③ 事故後経過期間



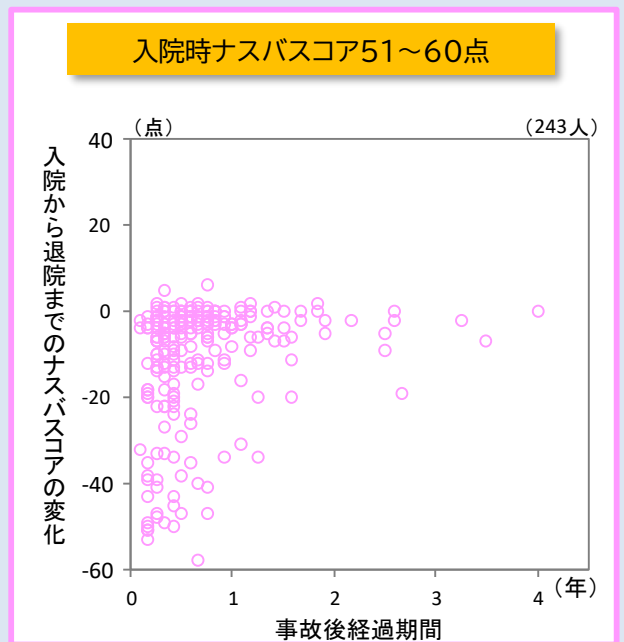
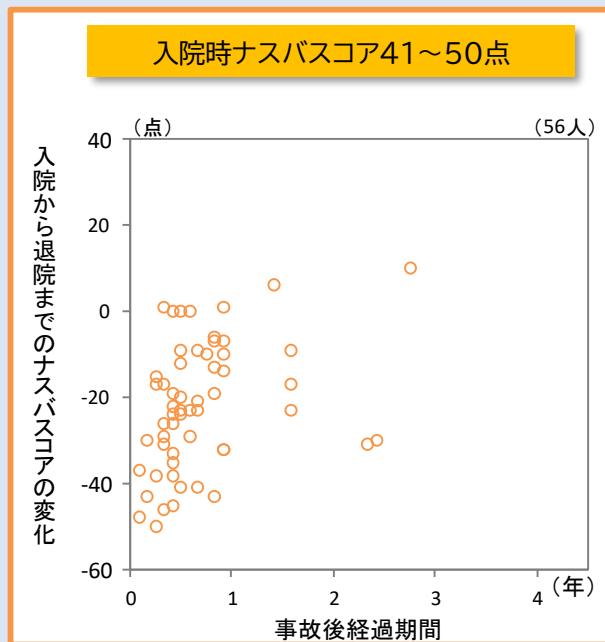
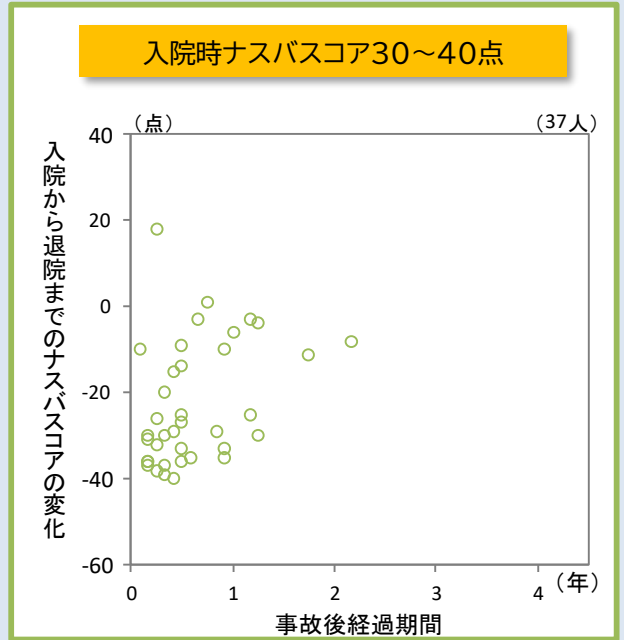
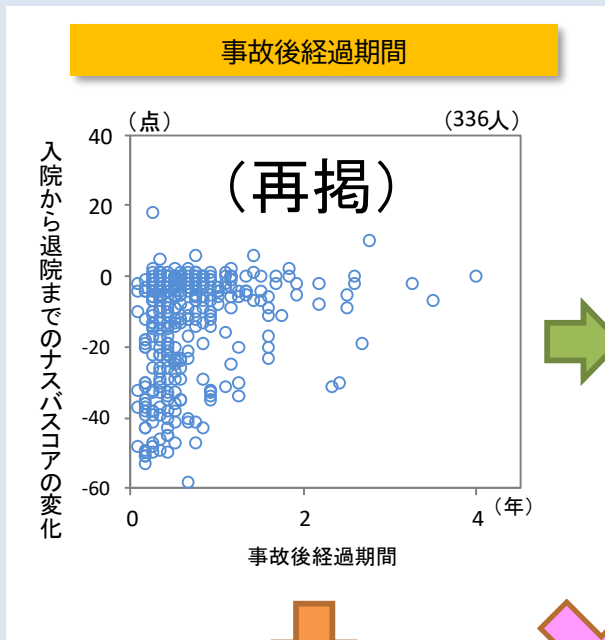
※ グラフ中の○は、患者を示している。  
 ※ 事故後経過期間は、4年以上の患者(9人)を除いて掲載している。  
 ※ いずれのグラフも、下方にあるプロットほど良く改善した患者のデータである。

【入院から退院までのナスバスコアの変化と事故後経過期間との関連】

- 平成26年6月1日から令和元年5月31日までの5年間に退院した患者(345人)に関して、入院時重症度別にグラフを3つに分けてみると、
  - いずれの重症度においても、事故後経過期間が短い場合には改善が良いこと
  - 入院時ナスバスコアが高くて、事故後経過期間が短い場合には改善している患者がいること
 などが示されている。

H26.6.1 5年間に退院した患者(345人)

R1.5.31



- ※ グラフ中の○は、患者を示している。
- ※ 事故後経過期間は、4年以上の患者(9人)を除いて掲載している。
- ※ いずれのグラフも、下方にあるプロットほど良く改善した患者のデータである。

【NASVA療護施設一覧】



【療護施設の治療・看護の特色】



**プライマリー・ナーシング方式**

同じ看護師が一人の患者を主担当として継続して受け持つことにより、きめ細やかな看護体制を整備。



**高度先進医療機器**

治療効果の判定や効果的な治療・看護方法等の策定が可能。



**ワンフロア病棟システム**

病室の仕切りを最小限とすることで、患者のわずかな意識の回復の兆しを捉えられ、効果的な治療と看護が可能。

## ナスバスコア(遷延性意識障害重症度評価表)

- 日本脳神経外科学会で定義された「植物状態」を基に、NASVA療護施設の入院患者の症状について、その程度を判定するための統一基準として、平成17年度より適用を開始した。
- 合計スコアが30点以上の方を入院の対象としている。
- 改善して20点以下になることを「脱却」の目安としており、脱却すると退院を勧奨する。

	重度10点	高度9点	中等度7点	軽度5点	ごく軽度0点
1 運動機能	<input type="checkbox"/> 四肢の自発運動はなし、痛み刺激で四肢の動きなし	<input type="checkbox"/> 四肢の自発運動はあるが無目的、疼痛刺激に対し四肢の動きがみられる	<input type="checkbox"/> 四肢に合目的性のある自発運動がみられる、疼痛刺激を払いのける	<input type="checkbox"/> 命令に従い体の一部を動かせる	<input type="checkbox"/> 自力で体位交換が可能、車いすに乗せると不十分でも自力で動かす
2 摂食機能	<input type="checkbox"/> 咀嚼、嚥下全く不能で経管栄養(胃ろう又は経鼻)	<input type="checkbox"/> ほとんど経管栄養 <input type="checkbox"/> ツバを飲み込む動作又は咀嚼する動作あり <input type="checkbox"/> 多少ならジュース、プリンなどの経口摂食の試みが可能	<input type="checkbox"/> 咀嚼可、又は咀嚼はダメでも嚥下大略可能で、介助により経口摂取するがときにむせる <input type="checkbox"/> 経口栄養の不足分は経管で補う	<input type="checkbox"/> 自力嚥下可能、咀嚼不十分でもよい <input type="checkbox"/> 全粥、キザミ食を全量介助にて摂取可 <input type="checkbox"/> スプーンを持たせると口に運ぶ動作あり、又は不十分ながら食物を口に入れる	<input type="checkbox"/> 不十分ながらも自分でスプーンで食べる
3 排泄機能	<input type="checkbox"/> 排尿、排便時に体動等全く認められず	<input type="checkbox"/> 排尿、排便時、多少の体動等あり	<input type="checkbox"/> 失禁はあるが、イヤな顔をする。又は体動が多いなどの合図あり	<input type="checkbox"/> 規則的に排便、排尿させることにより、失禁を予防できる <input type="checkbox"/> 失禁あるも、周囲にわかる(独自の)教え方をする	<input type="checkbox"/> 夜間を除き、失禁せず教える
4 認知機能	<input type="checkbox"/> 開眼しても瞬目反射なし	<input type="checkbox"/> 開眼し瞬目反射あり <input type="checkbox"/> 追視せず、焦点が定まらない	<input type="checkbox"/> 声をかけた方を直視する <input type="checkbox"/> 移動するものを追視する、TVを凝視するが、内容を理解していないと思われる	<input type="checkbox"/> 近親者を判別し、表情の変化がある <input type="checkbox"/> 気に入った絵などを見て表情が変わる	<input type="checkbox"/> 簡単な文字を読む <input type="checkbox"/> 数字がわかる <input type="checkbox"/> テレビを見てその内容に反応し、笑う
5 発声発語機能	<input type="checkbox"/> 発声、発語全くなし <input type="checkbox"/> 気切の場合でも口の動きもない	<input type="checkbox"/> 発声(うめき声)等あるが発語なし <input type="checkbox"/> 気切の場合、何らかの口の動きあり	<input type="checkbox"/> 何らかの発語あるが全く意味不明 <input type="checkbox"/> 呼名に、ときに不明瞭な返事がある <input type="checkbox"/> 気切の場合、呼名に対する口の動きあり	<input type="checkbox"/> ときに意味のある発語あり <input type="checkbox"/> 呼名に返事あり <input type="checkbox"/> 気切の場合、検者の口真似をする	<input type="checkbox"/> 簡単な問いかけに言葉で応じることができる <input type="checkbox"/> 気切の場合、口の動きが問いかけの内容に合っている
6 口頭命令の理解	<input type="checkbox"/> 呼びかけ(命令)に対する応答全くなし	<input type="checkbox"/> 呼びかけに対し、体動、目の動きなどの何らかの反応あり	<input type="checkbox"/> 呼びかけにときに応じることがあるが、意思疎通は図れない	<input type="checkbox"/> 簡単な呼びかけに、ときに応じ、ときに意思疎通が図れる	<input type="checkbox"/> 呼びかけに対し、常に迅速で正確な反応が得られる